

様式第 2 号

視察研修先	兵庫県神戸市	氏名	阿部 清
視察研修項目	「こども・若者ケアラー支援事業」について		
感想・所見など 神戸市の「こども・若者ケアラー支援事業」について、神戸市福祉局相談支援課子ども・若者ケアラー相談・支援窓口課長上田智也氏から説明を受けた。 2019年10月に、20代の女性が90代で認知症の祖母を介護していたが、精神的に追い込まれ殺害してしまった大変不幸な事件が起こった。現市長から、特命があり、プロジェクトチームを立ち上げ、「こども・若者ケアラー支援事業」に力を入れている。 ヤングケアラーは、18歳までの子供をいうが、大学生や社会人の20歳代の介護をしている若者がいることから、「あんな悲惨な事件は二度と起こさない」という思いから「こども・若者ケアラー」支援事業としている。30歳代まで広くとらえているようだ。 行政として、何とかしなければ、との思いと、ケアラーからすれば、自分の見られたくない部分をさらけ出すのは、相当勇気のいる行為であり、担当者の本気度が問われる支援事業のようだと感じた。 ケアラーに必要なと感じたところ 1) 民間企業との連携でケアラーを2泊3日の息抜き支援。 2) 就労訓練支援（柔軟に勤務ができるアルバイト） 3) 奨学金支援（奨学金を企業が返還） ケアラーの将来を考えた支援であり、自分の将来が見えることは本人にとって大きな活力になる。 兵庫県の取り組みで配食支援事業が行われている。家族人数分週1回無料で配布される。3か月間である。目的は、ヤングケアラーとの交流のきっかけづくりも含むというが、配食は続けてほしいものだ。 本市での、ヤングケアラーは児童民生委員や町会長の協力をお願いし、尽力していると思うが、人口減少している中、市民が住みやすい地域づくりをしていくことも必要と考える。			

様式第 2 号

視察研修先	兵庫県明石市	氏名	阿部 清
視察研修項目	「子育て施策（第二子以降保育料無料、給付型奨学金）」について		
感想・所見など 明石市は令和 4 年 4 月「明石市第 6 次長期総合計画」がスタートした。令和 6 年 4 月 1 日現在の人口は 306,091 人、2030 年の街の姿を、「SDGs 未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」と定め、まちづくりをしている明石市に子育て施策について視察した。 1. 第二子以降保育料無料について 明石市は、東側と北側が神戸市と接しているため、神戸市や近隣の市で仕事をし、明石市で子育てをする若者が急増している。出生率 1.55 で人口増に繋がっている反面、待機児童も増えているというベッドタウン化しているまちである。 2. 給付型奨学金について 入学準備金 30 万円 生活が苦しく進学することが難しい子どもたちに、高校進学に必要な必需品を揃えるための奨学金を支給する制度である。また、奨学金だけでなく、学習や相談の支援を行い、高校進学・進学後の学生生活をサポートする事である。 支給方法は内容を確認後、申し込み者名義の口座へ振り込まれる。 ○在学時支援金 毎月 1 万円を原則 3 年間（高校在学時に必要な費用）クラブ活動費、学用品費、通学費等 明石市給付型奨学金は、学びたい意欲のある子供には大きな支えになると思う。 本市も、経済的理由により進学できない子供に奨学金が支給できればと思うが、現在、人口減少の影響により、高校に入学する子どもが減少している。県が市町村の人口減少を考え、最低でも高校卒業程度の教育を受けやすい配慮づくりをしてほしい。一人でも多くの子供が教育を受け入れやすい環境や施策を作ることが必要と考え、人生から落ちこぼれないよう対策を講じながら、住みやすい地域づくりをしていくことが大切である。			

様式第 2 号

視察研修先	大阪府寝屋川市	氏名	阿部 清
視察研修項目	「要支援者の機能を改善！通所型サービス（短期集中）」について		
感想・所見など 要支援者の機能を改善！通所型サービス（短期集中）について視察をした。 人生の中で、誰もが通過する老化による要支援者の機能改善や生活改善を必要としている高齢者が、通所サービスに通い短期集中による介護予防や日常生活を取り戻すための事業である。 利用者の声を聴くと、生活の事情により、生活機能を必要とする高齢者が多いことに気づかされる。話だけでなく現場を見せてもらいたいと思った。短期集中による機能改善前と終了後の変化を視察したいと思ったところです。 本市においても、リハビリテーションを生かした自立支援の取り組みに力を入れていれておりますが、企業型訪問サービス支援も取り入れながら、充実していくことで、自身の能力を維持することの重要性を感じている。高齢者が日常生活を維持するため行動出来る範囲を増やし、その次の目標を見つけることも大切にしていくことが必要と考える。			